

## アメリカにおける岐阜県知事トップセールスの概要

平成29年1月

岐阜県商工労働部観光国際局海外戦略推進室

岐阜県では、平成21年度より、官民連携により主に経済発展が著しいアジアと、世界の情報と流行の発信拠点であるヨーロッパをターゲットとして、「観光・食・モノ」を三位一体で売り込む「飛騨・美濃じまん海外戦略プロジェクト」を推進してきました。

平成28年度、満を持して、世界最大級の市場規模を誇るアメリカにおいて、①観光誘客の拡大、県産品の輸出拡大に向けた観光・食・モノづくりのPR、②県及び、各務原市とスミソニアン航空宇宙博物館との連携、③関ヶ原町とゲティスバーグとの古戦場同士の連携、④「命のビザ―杉原リスト」のユネスコ「世界の記憶」登録に向けた協力要請の4つを目的に、初めてトップセールスを実施しました。

ワシントンD. C. の在アメリカ合衆国日本国大使公邸でのレセプションを皮切りに、航空宇宙に関する世界屈指の博物館の運営組織であるスミソニアン協会と岐阜県、各務原市で連携協定を締結、ゲティスバーグ区と関ヶ原町の姉妹都市協定、そして、ゲティスバーグ国立軍事公園と関ヶ原町の姉妹古戦場協定の2つの協定を結びました。

これらの協定締結を機に、かかみがはら航空宇宙科学博物館のリニューアルや、関ヶ原町の歴史遺産の保存管理や文化、観光、教育など幅広い分野での交流を深めていくことにしています。

世界の情報発信の拠点とも言われるニューヨークにおいては、平成28年9月7日夜、在ニューヨーク日本国総領事・大使公邸にて岐阜県PRレセプションを開催しました。経済界、旅行業関係者、メディア関係者、総領事館関係者、国際連合日本代表部関係者、日系企業関係者など約100名が出席されました。

冒頭、アメリカの著名な写真家であるマイケル・ヤマシタ氏による講演が行われ、ヤマシタ氏が自ら撮影した白川郷や高山の古い町並み、美濃和紙などの写真を使いながら岐阜県の観光地の魅力を紹介されました。

レセプションでは、公式にアメリカ初輸出となる飛騨牛の握り寿司やステーキ、すき焼き、朴葉味噌焼き、また、岐阜県内の12蔵の地酒が振舞われる中、中津川の地歌舞伎(東濃地歌舞伎中津川保存会)も登場し、会場は大いに盛り上がりました。



(写真1: 中津川の地歌舞伎に拍手喝采)

来場者からは、「飛騨牛という素晴らしい食材のある岐阜県に興味をもったので、次はぜひ岐阜を訪問したい。」「飛騨牛は、日本のチャンピオン牛になったことがあると聞いたが、まさにそれにふさわしい味だ。」との声をいただき、公邸料理人からも、「レセプションに際して、十分な量の飛騨牛料理を準備したが、あっという間になくなってしまい、驚いた。」とのコメントをいただきました。

また、地酒についても、「ニュー Yorker は辛口のお酒が好きだが、岐阜県の地酒は辛口でおいしい。」「是非、観光で岐阜県を訪問し、蔵元を訪れて地酒を飲みたい。」との声をいただきました。



(写真2: 大好評の飛騨牛)

ニューヨークでは、総領事・大使公邸でレセプションを行った他、ジャパン・ソサエティーで中津川の地歌舞伎のパフォーマンス、白川郷や下呂温泉、美濃和紙や陶磁器など岐阜県の魅力を紹介するプレゼンテーション、杉原サバイバーのシルビア・スモラー氏から「命のビザ」で知られる杉原千畝氏の功績を紹介するプレゼンテーション、飛騨牛の試食と岐阜県の地酒の試飲を行いました。加えて、アスターセンターでの岐阜の地酒の試飲及び商談会、有名レストランにおける飛騨牛のメニューフェアも開催しました。

まだ第一歩ではありますが、アメリカにおいて、岐阜県の魅力を総合的、重層的にPRし、好感触を得ることができ、今後の観光誘客、飛騨牛や県産品の販路拡大に期待が持てることを実感しました。

今後は、文化、芸術・学術交流、スポーツやまちづくりなど多様な連携・交流を深める視点からも海外戦略を進めていく必要があると考えています。

その際、岐阜県の観光・食・モノづくりの魅力をPRはもちろん、ユネスコ世界文化遺産の「白川郷」、ユネスコ無形文化遺産の「本美濃紙の手漉き和紙技術」、「山・鉾・屋台行事－高山祭・古川祭・大垣祭」、世界農業遺産の「清流長良川の鮎」、ユネスコ「世界の記憶」登録を目指している「命のビザ－杉原リスト」を始め、世界に誇るべき岐阜の魅力発信にこれらを大いに活かしていきたいと考えています。